



「ウエスタ川越」 川越駅西口 徒歩7分

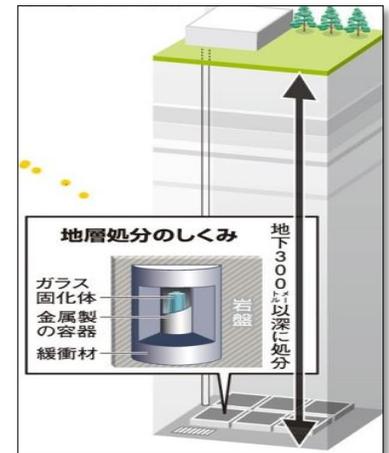
地学団体研究会埼玉支部
原発と核のゴミを考える市民向け講演会

『核のゴミどうするの?』

地層処分とは・・・

高レベル放射性廃棄物「核のゴミ」を
地下300mに保管すること。

火山・地震は大丈夫なの？



2019年6月8日(土) 14:00~16:00

会場：ウエスタ川越
1階 多目的ホールD (120名収容)

主催：地学団体研究会埼玉支部

高レベル放射性廃棄物「核のゴミ」は原発が稼働する限り発生し続けます。安全に保管する場所も見つかっていないのにもかかわらず、再稼働がすすめられています。しかも、福島第一原発の汚染水問題は解決の見通しが立たず、放射性物質の利用がいに難しいかを示しています。そのような状況にもかかわらず、2017年7月経済産業省は高レベル放射性廃棄物の処分場選定のための「科学的特性マップ」を公表しました。

地学団体研究会では、地質の専門家としてこのマップの非科学性について学習をすすめてきました。市民の皆様にもこの問題を知ってほしいという思いから、この講演会を企画しました。いっしょに考えていきませんか。

【内容】

13:30 開場 14:00 開演

○ 原発と核のゴミ問題の行き先は・・・

関根一昭 (地学団体研究会会員)

・ 元県立高校地学教師)

○ 福島第一原発の汚染水は コントロールされているのか

末永和幸 (地学団体研究会会員)

・ 地下水を中心とした地質コンサルタント)

会費無料 ・ 事前申し込みは必要ありません。

エネルギー資源庁のホームページより

火山国、地震国の日本でも地層処分は可能なのですか？

地層処分が最適の処分方法であるということは、長年の研究成果を踏まえた国際的に共通の考え方です。日本でも、研究の結果、地層処分に適した地下環境は国内に広く存在するとの見通しが得られています。勿論、日本中どこでも可能ということではありません。処分地には、火山や活断層等の影響を受けにくいことなどが求められます。このため、火山や活断層等が見当たらないグリーンの範囲の中から処分地を確保していく考えです。

詳しくはエネルギー資源庁、NUMO (原子力発電環境整備機構) のホームページを参照。

* 埼玉県内は、グリーンの範囲「**好ましい特性が確認できる可能性が相対的に高い地域**」の中に入っています。

地学団体研究会(地団研)^{ちだんけん}とは

地学の研究者・教師・愛好者によって1947年に創立された学術研究団体です。地団研は、創造活動・普及活動・条件作り活動の3つを活動の柱にしています。創造活動では、団体研究というユニークな研究活動を行い、その研究成果は、普及活動として地学ハイキングや講演会などを行って市民に普及しています。埼玉支部の日曜地学ハイキングは、4月で53年、524回続いています。ことしは、県内の活断層による地形変形の様子を案内する予定です。詳しくは、地団研埼玉支部のHPをご覧ください

地団研埼玉支部 連絡先 ^{くつま}久津間(09042415064)